

埼玉県現代俳句協会報

第88号 (2025年 3月20日)

第22回 埼玉県現代俳句大賞

《大賞》

「沁沁」

金子和美

喩えるなら海喩えるなら花野
延々とさびしいキヤベツ丸ごと買う
夕ぐくら心許なき指と肩
日向ぼこ赤に焦れて目を閉じる
たぶん生まれの時からいそぎんちやく
ああこれも刃物だと林檎剥いている
空蟬の夜になろうとするとところ
筋肉は裏切らないとなめくじり
しんとした人になりたし曼珠沙華
立春大吉とりあえず逃げよう
耳鳴りに閉じ込められて冬隣
正論をうまくかわしてしやばん玉
豆の花かるくふれるだけのキス
狼の眼に悲しみと憤り
山霧が聞き耳立ててゐる黙る

《大賞受賞のことば》

この度は埼玉県現代俳句大賞を
いただき、ありがとうございます。
山崎十生主宰、先輩方そして友人
達の中で、自由に笑いながら句を
作っています。それは、現代俳句
という土壌あつての自由であり、「紫」という庭あつ
ての楽しさなのだ感謝しています。どこまでも奥
が深く、太刀打ちできない俳句の世界に魅了され
十二年目。これからも、笑いながらもひたむきに俳
句と向き合っていきたいと思っています。



《経歴》

一九六三年生まれ 皆野町在住
所属結社「紫」
二〇一六年 現代俳句協会入会
二〇二〇年・二〇二三年「星雲賞」受賞

《準賞》

「胡椒瓶」

高木宇大

うろこ雲こきこき顎の蝶番
芋虫の眼の脈やかと出くはしぬ
世の中が傾ぐほど酔ふ十三夜
釘煮みな身を反らしをり初時雨
七三に垂るるマフラー巻き直す
いつしかに惹かれあひしか寒昂
こんな日は亡き人の来るぼたん雪
北窓を開けてファール昆虫記
神馬には白きたてがみ春疾風
うららかに溜めはちみつ琥珀色
ゆるやかにみづ振りほどき春の滝
ほんたうは雲になりたき山法師
なめくぢり海の青さをなほ知らず
臍に手術痕ある箱眼鏡
逝く夏の尻叩かるる胡椒瓶

《準賞受賞のことば》

今年はずう無理だろうなと思っ
ていた矢先に、準賞を受賞したと
の文が届きました。昨年に引き続
き「準賞」とのこと、嬉しい気
持ちと、もつと頑張らなくてはと
いう気持ちとがありました。現在、まだ現役で仕事
をさせてもらっているの、その合間を縫っての作
句でしたが、今年からはその仕事からも少し解放さ
れそうですので、この受賞を励みに、なお一層の精
進をしていきます。今後ともよろしくお願い申し上
げます。



《経歴》

平成13年 萬緑入会 平成20年 萬緑新人賞受賞
平成30年 銀化入会 令和2年 雪華入会
令和5年 第24回現代俳句協会年度作品賞受賞
現在、銀化同人、雪華同人

《準賞》

「寧日」

田口 武

タイマーにラジオは消えて遠蛙
鯉のぼり風と相性合はず垂る
薔薇園の薔薇は切り売りしてをらず
蟻二匹にて大いなるもの運ぶ
鳴きさうで鳴かざる墓を見てあたり
青田風チャリ通学の列が行く
いつだつて単独行動の蚯蚓
向日葵と門柱の高さが同じ
ちひさくてかはい蛇と言はれても
鎖樋台風十号が近い
赤い羽根胸に地主がやつて来る
審査待つ案山子コンクールの案山子
田を今は荒地野菊に明け渡し
松手入枌木訛の庭師来て
学校の裏手は団栗の林

《準賞受賞のことば》

「菌車」の前田代表から「あなた
もついに俳句労働者になりました
か」と言われるくらいに幾つかの
俳句関係の仕事のお手伝いをさせ
ていただいています。それはそれ
で嫌いでは出来ないことですが、好きなのはやはり
実作です。秋の熊谷での大会の折、参加者に向けて、
応募者を増やしたいとお声掛けがあり、急遽応募
させていただきました。結果として、準賞をいただ
けることになりました。大変うれしく存じます。ありがと
うございました。



《経歴》

昭和29年、桶川生、桶川在住
「菌車」「銀化」同人
一般社団法人現代俳句協会理事(年鑑部長)

第22回 埼玉県現代俳句大賞
上位得点一覧と入賞作品

賞名	順位	得点	作品番号	題名・作者名
大賞	1位	27	35	沁 沁 金子 和美
準賞	2位	26	21	胡椒瓶 高木 宇大
準賞	3位	25	31	寧 日 田口 武
佳作	4位	22	32	花りんご 佐藤 もえ
佳作	5位	19	12	いびつな蜜柑 本橋 稀香
佳作	6位	18	22	鳥のかたち 坂川 花蓮
次点	7位	16	33	秋の山 吉澤 祥匡
次点	8位	14	17	鬼虎魚 戸部 雷蝶
次点	9位	14	29	帰 心 宮城留美子
次点	10位	13	3	いきものの四季 長澤 健次

* 顕彰は6位までといたしました

番号・タイトル	氏 名	番号・タイトル	氏 名
1 珊瑚樹	岡田 美幸	21 胡椒瓶	高木 宇大
2 青い日	植 朋子	22 鳥のかたち	坂川 花蓮
3 いきものの四季	長澤 健次	23 芝川十五橋	関根 道豊
4 八月	中野 博夫	24 生きる	染谷 風子
5 無気力	一の橋世京	25 埼玉(きたま)の津	神田 一美
6 新酒酌む	増田 信雄	26 待合室	藤澤 晴美
7 夢の切れ端	鈴木 良二	27 石心	知念 哲庵
8 終の棲家	高梨 武州	28 儲かりまっか	篠原 葦
9 夕暮によせて	木下 周子	29 帰心	宮城留美子
10 星流る	早乙女文子	30 春うらら	安武 敬子
11 夢往来	柴田 獨鬼	31 寧日	田口 武
12 いびつな蜜柑	本橋 稀香	32 花りんご	佐藤 もえ
13 山祇の声	池田 雅夫	33 秋の山	吉澤 祥匡
14 絵日記	小林 水迷	34 森の奥から	長谷川 順子
15 月の宴	宮本 豊子	35 沁 沁	金子 和美
16 花と	草 みさを	36 番号末尾	宮澤 順子
17 鬼虎魚	戸部 雷蝶	37 実南天	金子 斐子
18 色は匂へと冬の旅	秋枝ゆうじ	38 どんどこどん	鱸 久子
19 ガムの紙	森 由美子	39 木の実	福島ときみ
20 遠い夏(エジンバラ)	渡辺 智恵	40 あっけらかん	永田 和子

第22回 埼玉県現代俳句大賞（2024年） 選考結果

選者名/順位 (得点)	1 位 (6 点)	2 位 (5 点)	3 位 (4 点)	4 位 (3 点)	5 位 (2 点)	6 位 (1 点)	7 位 (1 点)	8 位 (1 点)	9 位 (1 点)	10 位 (1 点)
桑原 三郎	03いきものの四季	33秋の山	7 夢の切れ端	32花りんご	27石心	15月の宴	10星流る	08終の棲家	34森の奥から	04八月
島田 妙子	37実南天	36番号末尾	39木の実	25埼玉の津	27石心	16花と	08終の棲家	7 夢の切れ端	19ガムの紙	32花りんご
石 寒太	31寧日	22鳥のかたち	06新酒酌む	27石心	25埼玉の津	24生きる	23芝川十五橋	32花りんご	21胡椒瓶	15月の宴
山崎 十生	35沁 沁	29帰心	22鳥のかたち	36番号末尾	20遠い夏	17鬼虎魚	19ガムの紙	10星流る	16花と	40あっけらかん
杉本青三郎	21胡椒瓶	03いきものの四季	35沁 沁	31寧日	15月の宴	12いびつな蜜柑	02青い日	17鬼虎魚	16花と	22鳥のかたち
加藤いさむ	35沁 沁	21胡椒瓶	12いびつな蜜柑	08終の棲家	11夢往来	22鳥のかたち	16花と	33秋の山	31寧日	10遠い夏
原 雅子	32花りんご	33秋の山	12いびつな蜜柑	04八月	30春うらら	03いきものの四季	20遠い夏(エジンバラ)	19ガムの紙	27石心	21胡椒瓶
山本鬼之介	21胡椒瓶	22鳥のかたち	33秋の山	24生きる	30春うらら	11夢往来	31寧日	13山祇の声	12いびつな蜜柑	10星流る
網野 月を	29帰心	32花りんご	30春うらら	31寧日	37実南天	5 無気力	33秋の山	34森の奥から	26待合室	23芝川十五橋
後藤 章	21胡椒瓶	17鬼虎魚	31寧日	32花りんご	12いびつな蜜柑	20遠い夏(エジンバラ)	23芝川十五橋	08終の棲家	13山祇の声	14絵日記
田中 朋子	2 青い目	35沁 沁	12いびつな蜜柑	32花りんご	16花と	29帰心	22鳥のかたち	30春うらら	31寧日	7 夢の切れ端
渡邊 樹音	17鬼虎魚	31寧日	19ガムの紙	9 夕暮によせて	29帰心	22鳥のかたち	03いきものの四季	39木の実	04八月	21胡椒瓶
堀之内長一	35沁 沁	5 無気力	19ガムの紙	12いびつな蜜柑	34森の奥から	37実南天	17鬼虎魚	31寧日	26待合室	16花と

令和7年度定期総会・一句会

さいたま文学館 於（3月8日）

入賞者

1位 埼玉県現代俳句協会 会長賞
地雷無き国に生まれて青き踏む

2位 埼玉県俳句連盟会長賞
菜の花や支へることを支へとし

3位 鴨たちは白鳥に敬語をつかふ

4位 やわらかく目隠しをしてひな納む

5位 黄色から春が始まる囁みち

6位 竜宮を目指して出でよ流し雛

7位 初めから老いてゐるらし春の象

8位 よそ見せぬ覚悟で穴を出づる虫

9位 冴返るフォークで突つく目玉焼

10位 受賞ドレスのスリット深し春浅し

11位 うっすらと思慕剝がしゆく春の雪

12位 淡雪の朝戸はどことなく女体

13位 春風がそつと隠れてゐたる靴

14位 生まれんとうごくもののかげろる

15位 輪島漆器の鈍きひかりよ路の芽よ

長谷川 順子

『現代俳句年鑑』のこと・ほか

田口 武

(一般社団法人 現代俳句協会 年鑑部長)

筆者名に肩書が付くと思いますので、先ず『現代俳句年鑑2025』について触れることにします。

申し込み人数は1603名(会員の4割弱)で、購読のみの方が43名いて、句を出された方は1560名です。5句の掲載になりますので、1560名に5を掛けると7800句が総数になるのですが、実際は7798句になっています。これは、おひとり分ち書きの方がいて、スペースの関係で3句の掲載になっていることによりです。一人5句を総花的に並べて何が面白いのかと思う方がいいかもしれませんが、現代俳句協会ならではの個性豊かな作品が多く、隙間時間に頁を繰るだけでも刺激を受け、俳句生活が豊かになると思います。また、埼玉県現代俳句協会の会員の方の作風も知ることが出来ます。参加されていない方は、今年は是非ご参加ください。

年鑑部の部会は21回開かれました。校正、校閲が主な作業です。年鑑では、漢字の異体字や略字をつかわないことになっていて、使われていた場合は、「常用漢字表」に示される通用漢字、平成九年までに法務省より示された「人名漢字」の通用字体、平成十二年の国語審議会答申で示された「表外漢字字体表」の印刷標準字体、および「表外漢字字体表」にも載っていない漢字については、漢和辞典の示す正字(いわゆる康熙字典体)を採用して、これらに直しています。また、作者が旧字をつかっている場合は、旧字も採用しています。一部例外も設け、「桜しべ降る」などにつかわれている「しべ」は、「蕊」が正字で、「薬」は異体字なのですが、月刊の『現代俳句』や総合誌、歳時記などでも「薬」がつかわ

れていることから、「蕊」「薬」は、どちらも採用し、作者が書いてきたとおりになっています(数年前までは「蕊」に統一されていました)。見落としやすい漢字に、「しかる」「のむ」があります。「叱」「呑」は異体字で「叱」「呑」が常用漢字表や表外漢字字体表に載っている漢字になります。虫眼鏡で見ないとその違いが判らないかもしれません。歴史的仮名遣いの誤りも訂正します。例えば、推量・意志の助動詞「よう」は、歴史的仮名遣いでも「よう」のママなのですが、「やう」となっていることがあり、訂正しています。文法については、いろいろな考えがあるので基本手を加えないことにしています。『現代俳句年鑑2024』では「訂正とお詫び」欄で、「○幼霊の零せしものか露ひとつ ×幼霊の零ししものか露ひとつ」となっていますが、学校文法的には○と×が入れ替わります。部員の誰かが直したのだと思いますが、作者から苦情がありました。「せし」か「しし」かは、学校文法ではすぐに正解が出るのですが、俳句ではそうはいきません。「文法上許容すべき事項」(明治三十八年文部省告示158号)には「佐行四段活用ノ動詞ヲ助動詞ノ「シ、シカ」ニ連ネテ「暮シシ時」「暮シシカバ」ナドトイフベキ場合」「暮セシ時」「暮セシカバ」トスルモ妨ゲナシ」とあり、このことを理由に「せし」とされているのかもしれませんが、文法上の誤りを看過してしまおうとすると、部員から「年鑑部の見識が疑われる」という厳しい声が出たりします。文法の判断は悩ましいことです。

ここからは、年鑑部とは直接関係ありませんが、初心者向けというか、ベテランでも今更聞けないようなことについて、少しだけ書かせていただきます。◆や・かな・けり

切れ字の「や・かな・けり」ですが、俳句専門語ではなく古語辞典に出ています。「や」は詠嘆を表す間投助詞で、句の途中や句末につかわれ詠嘆の意

味を表します。どんな品詞、どんな活用にも接続する助詞です。「かな」は、詠嘆を表す終助詞で、体言か活用語の連体形にしか接続しません。「○○にかな」という句が虚子の句にもありますが「かな」が何を詠嘆しているか問われたら、作者も読者も句に書かれていないことに言及しないと答えが出ないと思います。この表現は、省略が過ぎるのだと思いますし、「かな」が格助詞「に」に接続していて、文法的には誤りということになってしまいます。「けり」は詠嘆を表す助動詞で、活用語の連用形に接続します。

◆なりけり・なりにけり

意味は同じで、「なりにけり」は5音なので使い勝手がいいからそちらをつかう方が多いという方がいるかもしれませんが、同じ意味にはなりません。前述のように「けり」は連用形に接続します。「なりけり」は断定の助動詞「なり」の連用形「なり」に「けり」が接続しています。「なりにけり」は「けり」が「に」に接続していますので、「に」は連用形ということになります。何の連用形かという点、完了の助動詞「ぬ」の連用形です。「なりにけり」は、既に完了している事柄について、その事実にあらたに気づいた気持ちを表す(詠嘆)ことになりました。作句の際、句の鑑賞の際には違いを意識したいものです。

◆けり・り

私は、や・かな・けり、をつかった句を作りました。句集に「威銃鳴るまで待つて驚けり」を載せようとしましたが、最終校正で下五を「驚きぬ」に直しました。下五に切れ字の「けり」があると勘違いされないうためにです。「驚けり」を品詞分解すると、驚／けり、ではなく、驚け／り、となります。「り」は完了の助動詞です。この完了の助動詞「り」は、他の完了の助動詞「つ・ぬ・たり」とは違って特殊な接続をするのですが、字数が尽きてしまいました。

■ 諸家近詠一句

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
銚子を置き小昼の夫婦素風かな	戦中派令和高値の秋刀魚焼く	野佛を蹴倒すほどに黍嵐	秋出水水の力の裏表	葉にのりて天下を睨む雨蛙	無人駅となりし故郷山眠る	南極も小さくなるかと解水菓	別れとも知らぬ子猫の金の鈴	感じない感性ひとつ土手南瓜	いくたりの吾に遇ひたり晩秋裡	雲の峰異国と化して郷里かな	ラ・フランスどこかいびつな資本主義	めりめりと鎧を脱ぎし蟬の羽化	台風のそれで夫婦の旅めく日	検印の押されし一書蟬時雨	発光の地球の我ら火取虫	グレゴリオ聖歌のやうな秋の暮	焼諸割る単位足りない私たち	敬老日やさしくされてどつと老ゆ	風立ちぬ猫じやらしの穂わらひ出す	偕老の朝餉健やか焼目刺	収穫のぼうぶら野面積みのごと	さわやかや愛としあわせ生む葉の音は	酔うほどに庭師の無口落花生	能登の地の案山子見つめる千枚田	青海波天地始めて肅す星	どんな時でもあいいうえお逝春	相寄りて離るも乱れざる田螺
池田 雅夫	山本 弥生	山本 鬼之介	寺井 むつ	反町 修	増田 信雄	高橋 亨	宮本 豊子	鈴木 良二	山中 未萌	早乙女 文子	小池 弥生	遠藤 秀子	井上 燈女	石原 道明	本橋 稀香	波切 虹洋	植 朋子	松居 一江	長澤 健次	五明 昇	後藤 章	加藤 圭子	秋永 悦子	青柳 洋子	青木 鶴城	田口 鷹生	山崎 十生

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
蝸牛行進殻を盾として	星月夜やっぱり紙の本が好き	爽やかやノーベル賞がヒバクシャに	泣けば嗅ぐ嬰の尻の辺秋灯下	海底に地滑り梅は紅ほのか	誤作動に振りまわされて九月果て	西の市お多福担ぐ恵比寿顔	こめかみの痛みの奥の曼珠沙華	初鴨は護岸工事をうるさがる	形代やそれでも嘘をつく女	潜水艦浮上三鬼の寒い海	曼珠沙華ここではこと川の里	棟上げの檜の五寸金糸草	天高し絵地図の川を渡る風	くちなわを見てきたばかり眼がきれい	日の本の芥漁るや寒鴉	梅雨空や星座模様の傘開く	告白は大胆が良し鳳仙花	うちわ祭句の男と女かな	音合せなしのセッシン虫の闇	売り尽くし車道へ向かう尺蠖よ	翼の痕尻尾の名残り熱帯夜	新涼の風やはらく唇に触れ	子等去りて晩秋の空拡がりぬ	異常気象寒露破れしこの滂沱	ちよい悪が背中につけた牛膝	熊蟬や御所の守衛の無表情	雑踏の従順烏瓜の花	雷雲のおほひかぶさる少年期	月に海つねに半裸のゼウス像	気骨ある両神の風曼珠沙華	黒曜石翡翠と交換秋の虹
貴田 雄介	金子 和美	知念 哲庵	瀬戸山 千晴	越川 ミトミ	大石 壽美	高梨 武州	茂里 美絵	田口 武	藤澤 晴美	益子 さとし	神田 一美	飯田 忠男	田中 朋子	山崎 加津子	石渡 清	坂川 花蓮	越田 栄子	長谷川 順子	鈴木 砂紅	小林 水迷	森 由美子	石井 喜恵	岡田 弘子	中野 博夫	伊藤 進	神谷 邦男	杉本 青三郎	久下 晴美	堀之内 長一	福島 ときみ	田丸 浩太

通信欄散歩

年二回発行する「会報」の大部分が埼玉現俳協からの情報提供であるが、一ヶ所だけ会員の皆さんが自己主張できるところがある。それが葉書による「諸家近詠」の投句及び、葉書にある「通信欄」である。その「通信欄」にスポットを当てる。

（散歩１） 会報87号に掲載の「北海道から東京へ 鈴木牛後」への反響が大きかった。『なんと「藍生」の鈴木牛後さんの転居と近況を伺い、びっくりです。』『鈴木牛後様様の北海道との違い、同じ日本でこんなに違う。』『鈴木牛後さんの文章とても楽しく拝読しました。北海道での牛の俳句はとても好きな句でした。』等々。

（散歩２） 会報は、毎回埼玉現俳協会と、一般社団法人現代俳句協会の日本全国の支部へお送りしているが、今回何と熊本県現代俳句協会の事務局の方より、投句を頂いた。お礼状をお送りし、近詠に加えた。

（散歩３） 会報87号に「歴史的仮名遣い（旧仮名遣い）」を載せたところ、仮名遣いのコーナーが続けて下さい。とても良いです。『歴史的仮名遣いもいつも迷うので為になりました。』と好評です。（中野記）

68	67	66	65	64	63	62	61
春愁や推しが深爪したらしい	爆心地のマラソン現代へ平和賞	文化の日クレヨンにある濃紫	初恋に会いたくなりて小春の駅	豹柄か花柄セーターで迷う	近道の思わぬ暗さ神の留守	紅燈へ蕩児誘ふ十三夜	一切をおまかせあれと賜高音
岡田 美幸	秋枝 ゆうじ	関根 道豊	江田 尚可子	宮澤 順子	原 博子	染谷 風子	鱈 久子

〔到着順〕

選者が選ぶ

88号諸家近詠10句選

鈴木 砂紅

偕老の朝餉健やか焼目刺

五明 昇

素材も表現もいわゆる伝統的な俳句だが、骨太な仕掛けに魅かれた。例えば「老夫婦朝餉いつもの焼目刺」と言い換えると違いがよく分る。老夫婦は単なる呼称だが、偕老は仲睦まじく老いてゆく夫婦のイメージ。その二人が共に健やかに、焼目刺をバリバリと食する光景はまさに骨太。野菜を採るとか、カロリーはどれ程、などと余計な事は置いて、自然体の儘暮らす幸せを届けてくれる一句。

岡田 美幸

前句と違い現代的で、しかも心理的な要素ばかりで扱いにくい句である。「推し」とは自分が夢中になれる人やモノのこと。作者の「推し」(芸能人かスポーツマンか)が深爪をしたらしい。それをファンの人たちが心配して騒ぐ。作者も軽い春愁を感じるが、興味のない人には全く理解しがたいできごとだろう。ちなみに私の「推し」は大谷翔平選手。彼の深爪は投手としての一大事である。春愁という湿り

気のある季語に、乾いた現代性を持たせた点が秀逸。焼諸割る単位足りない私たち

植 朋子

発光の地球の我ら火取虫

本橋 稀香

野佛を蹴倒すほどに黍風

山本鬼之介

熊蟬や御所の守衛の無表情

神谷 邦男

翼の痕尻尾の名残り熱帯夜

森 由美子

くちなわを見てきたばかり眼がきれい

山崎加津子

天高し絵地図の川を渡る風

田中 朋子

こめかみの痛みの奥の曼珠沙華

茂里 美絵

後藤よしみ

くちなわを見てきたばかり眼がきれい 山崎加津子
蛇は古代インドにおいて、弁財天の使いとされ、中でも白蛇は弁財天の化身と言われている。諏訪神社の神使など、日本では多くの神社・仏閣で祀られている。また、北海道のアイヌの「白蛇姫」伝説をはじめ、各地に言い伝えが残っている。多くは、蛇の殺生を戒めるものである。作者が見た蛇は、やはり神の使いであろう。その神々さをとらえた作者の心の美しさが、自身の眼に現れている。ひらがなの多用は、蛇への近しさを示している。

爆心地のマラソン現代へ平和賞

秋枝ゆうじ

金子兜太の(彎曲し火傷し爆心地のマラソン)のオマージュともなる句。そして、ノーベル平和賞受賞への讃美。今年でヒロシマ・ナガサキから八〇年、そして金子兜太句発表から六七年となる。金子兜太は、長崎で時間があれば爆心地周辺を歩き、いたるところの被爆の傷を見聞した。そして、被団協では被爆者らが生身の人間として被爆の体験を全世界に発信し続けて来た。ここで、金子兜太句と掲句が重なりあってくる。平和と命と歴史の重みも伝えてくれる句である。

能登の地の案山子見つめる千枚田

青柳 洋子

敬老日やさしくされてどつと老ゆ

松居 一江

検印の押されし一書蟬時雨

石原 道明

雷雲のおほひかぶさる少年期

久下 晴美

翼の痕尻尾の名残り熱帯夜

森 由美子

告白は大胆が良し鳳仙花

越田 栄子

こめかみの痛みの奥の曼珠沙華

茂里 美絵

星月夜やっぱり紙の本が好き

金子 和美

古橋 淑子

くちなわを見てきたばかり眼がきれい 山崎加津子
子どもの話し言葉をそのまま書き下したような一行が、新鮮で魅力的な句となった。

蛇と出交し、恐る恐る見たその眼のきれいなことを興奮して語る人。彼の眼もまたきらりときれいだ。「きれいな眼」は、蛇の眼であり彼の眼でもある。野性の美に心奪われた時彼は、人間対下位の生物といった人間優位・二項対立概念から解放され、万物は等しくこの世に在るといふ世界へすとワープしたのかもしれない。人間中心の世界観を脱し、自然の瑞々しい真の美に感じた眼は、力強く美しい。海底に地滑り梅は紅ほのか

越川ミトミ

沖合に海底地滑りが起きた。海中は、泥と水がぶつかり合い渦巻き凄まじい。やがて、垂直に立ち上がった巨大波が陸を襲うのは必至。だが梅は、我知らず、ほのかに紅差し、幸そのもののような風情でほっこり咲いている。何という逆接。穏やかな日常の景の背後に迫る不穏な空気が怖い。

海底と(梅の)の陸上、地滑りと紅差す梅の花―

このかけ離れたもの同士を僅か17音の器に入れ込み、不気味で空恐ろしい空気感を生じた力業に脱帽。

所で、東日本大地震は、東北で梅の綻ぶ頃起きた。酔うほどに庭師の無口落花生

秋水 悦子

敬老日やさしくされてどつと老ゆ

松居 一江

検印の押されし一書蟬時雨

石原 道明

いくたりの吾に遇ひたり晩秋裡

山中 未萌

黒曜石翡翠と交換秋の虹

田丸 浩太

潜水艦浮上三鬼の寒い海

益子さとし

星月夜やっぱり紙の本が好き

金子 和美

近道の思わぬ暗さ神の留守

原 博子

新会員作家 競詠

冬夕焼

大崎 紀夫

「やぶれ傘」

風寒く晴れわたる日の避雷針
 白息を吐きながら土手おりてくる
 日の当る浅瀬を冬の鰯がくる
 石路咲いて舟小屋乾ききつてゐる
 冬夕焼吊り草ひとつおきに入

空つ風

近藤 萌

「門」

錆びついた約束白鳥は鳴かない
 天狼や琥珀の闇を食っている

悼 谷川俊太郎さん

谷川さん二十億光年の囁
 冬銀河深海に魚灯り挽歌
 またひとつ書肆の消える日空つ風

忘れもの

田丸 浩太

「銀化」

水面には交合の影夕とんぼ
 穴惑ひ忘れられない忘れもの
 穴数多夢の地図めく柿落葉
 遠火事にやがて追放さるる今
 メレンゲに雪煙り降る食堂車

風光る

宮本 豊子

風花や鼓膜のやうな昼の月
 風光るプロメテウスの泥人形
 トタン屋根の猫の足音初嵐
 雁渡し肺一管の笛となり
 悲しみの秤に秋の欠片置く

スケッチ

島村 典子

「海原」

遊ぶ子ら高く見守る冬木立
 日向ぼこ本のページを風捲る
 軍手して大根の白を磨き出す
 結界にどんぐり神の忘れ物
 短日や散歩の犬も急ぎ足

第二十二回埼玉吟行俳句大会

令和六年十月二十日、熊谷市立商工会館で吟行俳句大会が開催された。

当日は、三十一名から六十二句の投句があった。

すぐ近くの中央公園には金子兜太の「利根川と荒川の間雷遊ぶ」の句碑もあり、秋晴れにも恵まれ、熊谷での充実した作品が寄せられた。成績は次の通り。

第一位 熊谷市長賞

ラクビーボールたとえば秋愁の形 金子 斐子

第二位 埼玉県俳句連盟会長賞

上を向いて歩こう柿が甘いから 折原野歩留

第三位 埼玉県現代俳句協会会長賞

銀杏は境内の外にも落ちる 田口 武

第四位

草の絮騎馬武者像の頬掠め 吉澤 祥匡

第五位

熊谷は秋を忘れていなかった 宮澤 順子

第六位

燃えていてさみしい水底の紅葉 杉本青三郎

第七位

戦災を知る星川の澄むばかり 篠田 悦子

第八位

風切羽なくて鶏頭なまなまし 鳥山由貴子

第九位

刈田風やと熊谷ひとこち 森 由美子

第十位

飛び乗れば能登はすぐそこ冬隣 渡辺 智恵

第十一位

すれ違ふ竜田姫より風匂ふ 中野 博夫

第十二位

爪先のすこし痺れて銀木屋 茂里 美絵

第十三位

あの雲が消えたら秋晴れと言おう 山崎 十生

第十四位

稲穂そる千手観音の手の如く 塚原 久紅

第十五位

菓子祭り列の先には秋もちつき 島村 典子

第23回 埼玉県現代俳句大賞作品募集

◆作品 ①未発表作品(厳守) 15句
(1人1編に限りません)

②原稿は楷書で丁寧に書き、題名を付すこと、前書き不可。

③所定の応募用紙のほか、ワープロ等で作成した応募も受け付けます。

④極端な類想があつた場合は入賞を取り消します。

◆応募資格 埼玉県現代俳句協会会員(年会費既納者)
※選考・正賞既受賞者は応募不可

◆応募費用 10000円
(作品と一緒に郵便小為替を同封のこと)
※「埼玉県現代俳句協会限定会員」は参加費20000円が必要になります。

◆応募締切 2025年10月20日(月) 厳守
(電子メールでの受付不可)

◆選考委員 桑原三郎、島田妙子、山崎十生、杉本青三郎、加藤いさむ、石 寒太、岩淵喜代子、原 雅子、山本鬼之介、後藤 章、網野月を、田中朋子、渡邊樹音、堀之内長一

◆顕彰 ①大賞1名 賞状・賞金(3万円)
②準賞若干名 賞状・賞金(1万円)
③佳作若干名(記念品)

◆発表 埼玉県現代俳句協会定期総会席上
2026年3月7日(土)

◆応募受付 2025年8月1日(金)～10月20日(月) 厳守
〒360-0816

◆応募宛先 熊谷市石原100-1 森由美子方
埼玉県現代俳句協会俳句大賞係
(電話 048-524-0834)

◆主催 埼玉県現代俳句協会

埼玉県現代俳句協会参加マニユアル

埼玉県現代俳句協会では、インターネット句会を開催しています。参加してみたいという方の参考になるよう、手順を紹介いたしますのでお試しください。

◆まず会員登録から

①「現代俳句協会ホームページ」画面を開く

②「インターネット句会」をクリック

③次に「新規登録はこちら」をクリック

④登録に「必要事項を入力」し、「登録する」をクリック

⑤次に「次へ」をクリック

⑥次に「次へ」をクリック

⑦次に「次へ」をクリック

⑧次に「次へ」をクリック

⑨次に「次へ」をクリック

⑩次に「次へ」をクリック

⑪次に「次へ」をクリック

⑫次に「次へ」をクリック

⑬次に「次へ」をクリック

⑭次に「次へ」をクリック

2025年度 埼玉県現代俳句協会

再編後ブロック別該当市町村一覧

2025.01.25現在

ブロック名	該当地域
県南ブロック	川口市・戸田市、さいたま市(桜区・浦和区・南区・緑区)・蕨市
中央ブロック	さいたま市(西区・北区・大宮区・見沼区・中央区・岩槻区)・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町
県西ブロック	川越市・狭山市・入間市・日高市・飯能市・所沢市・鶴ヶ島市・坂戸市・ふじみ野市・富士見市・新座市・朝霞市・志木市・和光市・三芳町・鳩山町・越生町・毛呂山町・滑川町・嵐山町・小川町・ときがわ町
県北ブロック	秩父市・横瀬町・皆野町・長瀨町・小鹿野町・東秩父村・熊谷市・深谷市・本庄市・鴻巣市・東松山市・美里町・寄居町・神川町・川島町・吉見町・北埼玉(行田市・羽生市・加須市)
県東ブロック	春日部市・幸手市・越谷市・吉川市・三郷市・八潮市・草加市・杉戸町・松伏町・北埼玉(久喜市・白岡市・蓮田市・宮代町)

《89号の諸家近詠の一句を募集！》

下記の葉書を使って御応募下さい。

85円切手を貼って投函ください。

たくさんの皆様の御応募をお待ちしております。

〒362-0043

中野博夫行

上尾市西宮下2-74

【通信欄】

歴史的仮名遣い

「老ふ」か「老ゆ」か

答えから書くと「老ゆ」が正解になります。歴史的仮名遣いというよりは、文法から考えるとかかりやすいと思います。現代語の「老いる」の文語は「老ゆ」です。活用は、い・い・ゆ・ゆる・ゆれ・いよ・で、ハ行は出てきません。ですので、「老ゆ」が正しく、「老ふ」や「老ひて」「老ひる」にはならないことが分かります。似たような語に現代語の「終える・終わる」の文語「終ふ」があります。活用は、自動詞、他動詞ともに、へ・へ・ふ・ふる・ふれ・へよ・で、ハ行が出てきます。ですので、「終ふ」や「終へて」「終ふる」となります。口語(文法)で歴史的仮名遣いの場合にはこれに準じます。(会報編集部)

キリトリ

祝！ 第61回 現代俳句全国大会 現代俳句協会会長賞

白桃の浮力戦争終わらない
山崎加津子



句集

『素心』

古利根の土手にはじまる春の色
楸邨の歩幅を憶ひ青き踏む
母ありし頃はそろそろ豆の飯

高橋邦夫

『煙草』

金魚から青空は見えるだらうか
田圃には田植機の入口がある
白鳥は重たくて木に止まらない

田口 武

小説

『nの方舟2』

彩の国りそな埼玉文学賞

俳句部門佳作

手話の子の手のひらに吹く夏至の風

木村隆夫

新会員

阿武敬子・佐藤もえ・島村典子

● 事務局だより ●

・第47回埼玉俳句大会

7月20日さいたま文学館大ホール

・ブロック長会議 11月頃予定

・ねんりんピック彩の国さいたま2026開催記念

リハーサル大会 彩の国俳句大会 11月1日(土)

会場：レイボックホール

大宮区大門町2丁目118

7階 大ホール

内容：事前投句

当日吟行（氷川神社）講演会・表彰

第 88 号 令和7年3月20日 発行

発行人 杉本 青三郎

発行所 埼玉県現代俳句協会

〒332-0012 川口市本町2-6-22-103

電話 048-225-5603

編集責任者 田中朋子

事務局長 中野博夫

〒362-0043 上尾市西宮下2-74

電話 048-773-4693

事務局次長 後藤よしみ

〒335-0022 戸田市上戸田4-14-14-304

電話 080-7387-4435

会報編集委員 田口武、中野博夫、田中朋子

印刷所 コーチ印刷

2025年度会費納入のお願い

年会費 1,000円

埼玉県現代俳句協会のみの方 2,000円

振込 下記、口座記号・番号、加入者名宛

口座記号						口座番号					
0	0	1	7	0	=	2	=		4	1	3
									8	1	8
加入者名						埼玉県現代俳句協会					

キ リ ト リ

電 話

氏 名
(ふりがな)

住 所

〒 -

俳号

キ
リ
ト
リ

89号諸家近詠一句

(新かな・旧かな)
どちらかを○で囲んでください。

(締切5月30日厳守)